お客様各位

■□＝＝□

株式会社　京浜予防医学研究所

■□　ＫＭＬメールニュース　□■　　◆◆　VOL.87　◆◆

□
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝□■

□■

株式会社　京浜予防医学研究所　よりお知らせ致します！
2019年　9月　28日発行
□■　https://www.kml-net.co.jp/

ＫＭＬメールニュースVOL.87をお送り致します。
お忙しい事とは存じますが御一読いただきまして、先生方の
一助としていただければ幸いでございます。

☆★　トピックス　★☆

【１】秋のアレルゲンは雑草花粉だけではありません！
　　昆虫（ガ／ゴキブリ／ユスリカ）についてのFAQ
【２】ビタミンＤ　ＥＣＬＩＡ
【３】ＫＭＬインフォメーション　７月～９月分のお知らせ

１　秋のアレルゲンは雑草花粉だけではありません！
昆虫（ガ／ゴキブリ／ユスリカ）についてのFAQ

Q1　昆虫アレルゲン（ガ、ゴキブリ、ユスリカ）とは？
A1　屋内外で大量発生するものや屋内に常在するものも多く、
　　生活環境で感作される機会の多いアレルゲンです。

昆虫名	特徴（１）
ガ	屋内で発生するガの幼虫は光を嫌って暗いところで生活し、成虫は夜行性のため、発生に気付かないこともあります。 メイガは食品に、イガはウール製品などの衣類に発生します。
ゴキブリ	家住性のゴキブリ類は水を好み夜間に活動し群居性があります。
ユスリカ	河川や湖沼、用水路、側溝など水域で発生し、成虫は蚊に似ていますが刺しません。

Q2　昆虫アレルゲンの感作と発症頻度は高いの？
A2　ガ、ゴキブリ、ユスリカは、ダニ、スギ、カモガヤに次いで気管支喘息、アレルギー性鼻炎において頻度の高い吸入性アレルゲンです。(2),(3)

Q3　何がアレルゲンとなるの？
A3

アレルゲン名	アレルゲンとなるもの（１）
ガ	体や翅を覆う鱗粉（りんぷん）、幼虫の糞
ゴキブリ	糞や虫体（破砕された虫体が室内塵に混入）
ユスリカ（成虫）	虫体（破砕された虫体が空気中に浮遊）

Q4　昆虫アレルゲンの感作頻度はどれくらい？
A4　いずれの地域でも昆虫に対する陽性率は高い。(4)

アレルゲン名	北海道・東北	関東	東海	近畿	中国・九州
ガ	２９．３％	３０．９％	３６．０％	２８．０％	４２．３％
ゴキブリ	１３．３％	１２．８％	１４．７％	１０．４％	１８．６％
ユスリカ	１３．３％	１６．１％	１６．０％	１１．０％	２６．８％

Q5　昆虫アレルゲン感作に年齢差はあるの？
A5　年齢差は見られません。(2)

Q6　昆虫はいつ増加するの？注意が必要な時期はいつ？
A6　原因となる昆虫が増加する時期に症状が発症、悪化すると言われていますので、昆虫が増加する時期に注意が必要です。(2)

昆虫名	増加する時期
ガ	屋内外ともに昆虫の個体数が増加する時期は同様で、初夏と晩夏から秋（特に秋）に増加します。
ユスリカ	
ゴキブリ	年間を通して見られますが、特に夏に増加します。

Q7　ガ、ゴキブリ、ユスリカは屋内外でも見られるの？
身近ではどこにいるの？
A7　屋内外でみられます。注意すべき掃除・回避場所は以下の通りです。

【屋内での注意場所】

昆虫名	注意すべき掃除・回避場所
ガ（メイガ幼虫）	食品害虫で食品から発生するため台所付近。
ガ（イガ幼虫）	ウール製品（衣類・布団）に発生するためクローゼットや押入れ付近。
ゴキブリ	水廻り、湿度が保たれる機器類付近、ゴミ箱や食品など餌のある場所。

【屋外での注意場所】

昆虫名	注意すべき掃除・回避場所
ガ	光（灯り）に誘引され屋内へ入るため、窓付近。 また、屋内に入ったガの鱗粉（りんぷん）、ユスリカの死骸は室内塵中に混入するため室内。
ユスリカ	

Q8　ガ、ゴキブリ、ユスリカ（成虫）を測定する患者さんのメリットってなに？
A8　原因抗原を知ることにより掃除・回避ポイントが明確になり効果的な除去が可能となります。

Q9　昆虫が関与するアレルギーの有用な診断方法は？
A9　昆虫が関与するアレルギーの診断は問診からの聴取は困難であり、皮膚試験用などのエキスもないためイムノキャップ（ImmunoCAP）による特異的 IgE 検査が有用です。

【参考】
(1)　財団法人　日本環境衛生センター　武藤敦彦　指導
(2)　日耳鼻 105 : 1181-1188, 2002
(3)　アレルギー・免疫13（4）: 74-80, 2006
(4)　鼻アレルギー診療ガイドライン2009

２　ビタミンD　ＥＣＬＩＡ

骨粗鬆症の原因の中でも、近年注目が集まっているのがビタミンＤ不足です。日本人女性の９割が不足または欠乏状態であるといわれています。

50歳以上の日本人女性を対象とした血中ビタミンＤ濃度と骨折発生の関連を調査した研究の結果では調査開始から５年間でビタミンＤが10 ng/mL以下の群では、ビタミンＤが充足している（30 ng/mL 以上）群に比べて、最大で６倍以上の骨折リスクが発生していたことがわかりました。日本人における平均寿命と健康寿命との差は、男性が約９年、女性が12年もあります。原因の一つとして骨粗鬆症による骨折が重篤な結果をもたらすとされます。将来の骨折を予防する為にも血中ビタミンＤ濃度の評価は非常に重要であると考えられます。

25-OHビタミンＤは2019年度版の総合検査案内の53頁に掲載しております。CLIA法で保険点数400点のものは、ビタミンＤ欠乏、くる病を目的としている検査になります。原発性骨粗鬆症の検査の場合は保険点数117点のビタミンＤ ECLIA法をご依頼ください。

参考文献　知らぬ間に進行する骨粗しょう症に注意　ロシュダイアグノスティックス株式会社
骨粗しょう症と血清25水酸化ビタミンＤ濃度　日本骨代謝学会学術集会
中外製薬株式会社／ロシュダイアグノスティックス株式会社

３　ＫＭＬインフォメーション　７月～９月分のお知らせ

前回メールニュースを配信しました後から現在までに発行されました「ＫＭＬインフォメーション」についてお知らせ致します。

各インフォメーションにつきましては、医院様へ随時お届けしておりますが、ご確認などに活用していただければ幸いです。

2019年７月16日　風疹EIAクーポン検査所要日数についてのお知らせ
https://www.kml-net.co.jp/information/pdf/2019-0716.pdf

2019年８月 5日　検査受託再開のお知らせ（ハウスダスト２）
https://www.kml-net.co.jp/information/pdf/2019-0805.pdf

2019年８月21日　検査内容変更のお知らせ
https://www.kml-net.co.jp/information/pdf/2019-0821.pdf

2019年９月 2日　基幹システム変更のお知らせ
https://www.kml-net.co.jp/information/pdf/2019-0902.pdf

■□＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

＼／　最後までお読みいただきまして有り難う御座いました。

編集／発行　https://www.kml-net.co.jp/
株式会社　京浜予防医学研究所
〒216-0001　神奈川県川崎市宮前区野川　1432-1

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝□■